

## 第2回 大洗町立学校のあり方検討委員会

### 資 料

大洗町立学校のあり方検討委員会

## ◆ 議 事

### 1 学校の適正規模（望ましい学級数）について

《公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き》（文部科学省）

#### (1) 学校規模の適正化が課題となる背景

◎児童生徒数の減少・学校の小規模化が進む中、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられている。

◎地域コミュニティの衰退、三世同居の減少、共働き世帯や一人親世帯の増加、世帯当たりの子どもの数の減少といった様々な背景の中で、家庭や地域における子どもの社会性育成機能が弱まっているため、学校が小規模であることに伴う課題が一層顕在化している。

◎各市町村においては、国の標準や通達、手引を参考としながら、それぞれの地域の実情に応じて、学校規模の適正化を検討し、学校の統廃合が進んでいる。

《参考 近年の茨城県内市町村の状況》

市町村名	年度	小学校・中学校	対象学校数
鉾田市	令和8年度～	小学校 新設校に統合	4校⇒1校
	令和4年度～	小学校 新設校に統合	4校⇒1校
	令和1年度～	小学校 新設校に統合	7校⇒1校
	平成28年度～	小学校 新設校に統合	5校⇒1校
日立市	令和7年度～	小学校 新設校に統合	4校⇒2校
	令和6年度～	小学校 新設校に統合	2校⇒1校
大子町	令和7年度～	中学校 統合（既存校活用）	4校⇒1校
美浦村	令和7年度～	小学校 新設校に統合	3校⇒1校
桜川市	令和7年度～	小中学校 新設（義務教育学校）	4校（3小、1中）⇒1校
石岡市	令和6年度～	小学校 統合（既存校活用）	3校⇒1校
五霞町	令和6年度～	小学校 新設校に統合	2校⇒1校
筑西市	令和6年度～	小中学校 新設（義務教育学校）	6校（5小、1中）⇒1校
つくばみらい市	令和5年度～	小学校 新設校に統合	2校⇒1校
利根町	令和5年度～	小学校 新設校に統合	3校⇒1校

## (2) 学校規模の適正化について

### ●検討の際に考慮すべき観点

- ・標準は「12 学級以上 18 学級以下」であるが「特別の事情がある時はこの限りではない」という弾力的なものとなっていることに留意する。
- ・具体的にどのような教育上の課題があるのかを考える必要がある。
- ・学級数に加え、学校全体の児童生徒数などの将来推計を総合的に検討する。

### ●学級数に関する視点（基本的視点）

#### 『学級数が少ないことによる学校運営上の課題』

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習に実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子どもの考えにクラス全体が引っ張られがちになる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

#### 『教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題』

- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを活かした指導に充実が困難となる
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学級経営が不安定になったりする可能性がある
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる
- ④ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる
- ⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
- ⑥ 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる
- ⑦ 平日の校内研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる

- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境が作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会等が成立しない）
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる

#### 『学校運営上の課題が児童生徒に与える影響』

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる
- ④ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある
- ⑦ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

#### 『望ましい学級数の考え方』

##### 【小学校】

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するために「1学年に2学級以上(全体で12学級以上)」

##### 【中学校】

全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能したり、同学年に複数教員を配置するため、また、全ての授業で教科担任による学習指導を行うために「1学年に3学級以上(全体で9学級以上)」

#### ●学校全体の児童生徒数に関する視点（併せて考慮すべき視点）

##### 『学校全体の児童生徒数が極端に少なくなった場合の課題』

- ① クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ② 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ③ 学校全体として男女比の偏りが生じやすい
- ④ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる

## 2 小規模校のメリット・デメリットについて

※ 別紙参照

## 3 情報周知について

※ 別紙参照 【No, 2】 広報おおあらい (案)

## 4 アンケート調査について

※ 別紙アンケート (案) 参照

### (1) 調査対象者

- ア 町立小中学校に在籍している児童生徒の保護者
- イ 町内保育施設に在籍している児童の保護者
- ウ 町立小中学校の教職員
- エ 町内保育施設の代表者及び従事している保育者
- オ 町立小学校 6 年生及び町立中学校 3 年生

### (2) 実施方法 Web アンケートにより実施

- ア 学校情報連絡ツール
- イ 調査依頼文に調査表 QR コード表示
- ウ 学校情報連絡ツール
- エ 調査依頼文に調査表 QR コード表示
- オ GIGA 端末活用

### (3) 調査期間 (予定)

- |         |   |           |         |      |
|---------|---|-----------|---------|------|
| ア・イ・ウ・エ | = | 2月18日(水)～ | 3月1日(日) | 12日間 |
| オ       | = | 3月2日(月)～  | 3月6日(金) | 5日間  |

## 5 今後のスケジュールについて (予定)

- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| ① 町ホームページ(広報おおあらい【No, 2】)掲載 | 2月13日(金)～ |
| ② 週報おおあらいでの案内               | 2月18日(水)～ |
| ③ 広報おおあらい【No, 2】掲載          | 3月4日(水)～  |
| ④ アンケート実施                   | 2月18日(水)～ |

### ◆ その他

- ・ 第3回検討委員会の日程

日時：令和8年3月 日 ( ) 午後1時30分～

場所：トヨペット スマイルホール 大洗